

# 九条の会

秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://9jo.iinaa.net/>

秋葉区「九条の会」 結成5周年のつどい

## 記念講演 この目で見てきた戦争と憲法9条

### 報道写真家 石川文洋さん

とき 12月5日(日) 13:30～

ところ 秋葉区新津健康センター はつらつホール

2005年12月10日、「新津・小須戸9条の会」が結成され、まもなく5周年を迎えようとしています。事務局では、「秋葉区九条の会、結成5周年のつどい」を計画し、記念講演を報道写真家の石川文洋さんにお願ひしました。「5周年」という「節目のつどい」になるように準備を進めています。会員の皆さまから、「周りの人々にもはたらきかける」などのご協力をお願いします。

秋葉区「九条の会」は180人の会員でスタートしました。5年間で約100人が増えましたがまだまだ小さな勢力です。これからもっと大きく前進できるような「つどい」になることを願っています。



### 協力券(500円)へのご協力をお願いします

「秋葉区九条の会」の活動資金は、入会金(200円)と寄付金でまかっています。入会金は入会する時だけですから、「寄付金」が活動を支えています。講演会の企画や会報の発行などには、活動資金が必要です。そのために「秋葉区九条の会」の活動を支える『協力券』を500円で発行し、多くの方々のご協力をお願いすることになりました。尚、「協力券」は講演会の入場券ではありません。後日、事務局が「協力のお願い」にお伺ひしますので、よろしくお願ひします。

### プロフィール

1938年 沖縄県那覇市首里に生れる  
 1964年 毎日映画社を経て、香港のファークス・スタジオに勤務  
 1965年～1968年  
 フリーカメラマンとして南ベトナムのサイゴンに滞在  
 1969年～1984年  
 朝日新聞社カメラマン  
 1984年～現在 フリーカメラマン



「戦争と人間」



石川文洋さんの作品より



「世界の笑顔」

## 平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、  
皆でつなく、平和のメッセージを！

### 集団自決の真実 海老重男（北上）

沖縄戦での住民集団自決今夏も話題になった。守るべき日本軍の強要があったかどうか訴訟にまでなった。軍の命令により住民がその気になったかどうかどうもフにおちない。

人間はどんな状況までおいつめられても、集団で自決するなんて考えられない。アウシュウイツのユダヤ人は最後まで生きようとしていた。軍人たちの自決や集団玉砕はあっても、市民が自ら集団で自決したとはどんな状況の中でおこったのか。

最近、読谷村の子ビチビガマ（洞穴）での状況がある作家の取材で明らかになった。二十一人の子供を含む八十三人が自決した場合は、生きのこり証人は堅く口をとぎして真実を語らなかった。従軍看護婦による殺人がおこなわれたとして村人はうわさし、口を閉ざしたのだ。

すぐ隣のガマ（洞穴）では数百人が米軍に投降し、一人も死んでいない。一人の勇気ある男が救ったのだ。海外移民の経験あるこの男は英語が話せるので非国民とされいじめにあっていた。集団自決寸前に、米軍の投降勧告に応じて、一人出て行った。住民は裏切りとののしり、殺されると思った。が、再び戻った姿をみて全員、生きようと思ったそうだ。話をつけてきたから出ようとの報告に納得し全員救われたのだ。

生きて虜囚の恥かしめを受けずの戦陣訓は軍人たちには徹底していた。捕虜になることは許されない裏切り者扱いになる。兵士たちがそう思っても、一般人までそう信じさせたのは何か、生きていては女は乱暴され、子供は売られるとうわさが流布していた。でも、ほんとかなという思いもあったはずだ。

生きのこり証人はだんだんほんとの事を語りだした。看護婦の殺人とは、毒注射を求める住民の要求に応じた事もわかってきた。死を選んだ人々の中に、中国でぎゃく殺をみてきた元日本人があり、日本軍の残虐行為のようなことがおこなわれるぞ、と脱出への恐怖をあおったという。暗い洞穴の中での集団狂気が自決におこまれたというのが真実のようだ。

## 軍国少年だった老人の思い

渡辺 譲（小口）

私が生まれた翌年に満州事変が起り、小学校二年のとき日中戦争が始まり、六年生のときに太平洋戦争となり、終戦が旧制加茂農林学校二年生（今の高校一年生）だったので文字どおりの軍国少年として育った。

小学校時代は、出征兵士の見送りや戦死者の遺骨迎えに村はずれまで行ったり、防空演習や体育の時間での剣道・柔道・相撲などのいわゆる「武道」が初中終おこなわれた。

高学年になると教育勅語と青少年学徒に賜りたる勅語を暗記しなければならず、卒業学年のときには、新たに教練が加わり、ゲートルの巻き方、分列行進、人員点呼の仕方などを教わった。そして秋には少年兵（陸軍少年兵、乙種予科練）や満蒙開拓義勇軍等への志願があり、私たちのクラスからも少年飛行兵として四名が卒業すると間もなく出兵し、開拓義勇軍を志願した者は卒業式を待たずに出征していった。今の中学三年生の年令だ。

私は、加茂農林学校（旧制）に進学したが殆んど勤労働員の日々であった。ゲートルを巻いて地下足袋を履き弁当一つを持って・・・

紙不足で満足な教科書もなく授業らしい授業のない中等学校生活だった。また軍事教練があり軍人勅諭（軍人五ヶ条御誓文といわれていた）を暗記させられ、年に一回ある査閲には全校生徒の前で査閲官（佐官＝大佐・中佐・少佐の軍人）に指名暗唱させられたりした。

二年生のとき終戦となり、三年生のとき新憲法が公布された。公民の授業の時、校長から新憲法、特に戦争放棄と象徴天皇のことについて心を込めた講義があり、私たち卒業を間近に控えた三年生は新日本建設の決意を新たにした。

あれから六十数年、時代は大きく変わり国民投票法も成立した。こうした中で憲法第九条が変えられようとしているが、世界に誇るべきこの「戦争放棄」の条文は未来永劫に遵守してゆべき憲章であると信じている。